

東大阪市旭町庁舎

戦後モダニズム建築として名高い東大阪市旭町庁舎(旧枚岡市庁舎)が4月に解体されると知った。難波から近鉄に乗り「瓢箪山駅」に向かった。生駒山を眺めると、旭町庁舎らしい建物が見えた。駅から商店街を真っすぐに進んで行ったが、庁舎が見当たらない。焦って通り過ぎてしまった。庁舎はすでにフェンスで囲われ、足場の取り付け作業が行われていた。ショックだった。庁舎全体の写真が近くから撮り



にくいので、近くのアパートの階段から撮り、駅に戻った。庁舎解体に関わる予算執行差し止めを求める住民訴訟も開始された。ここでは、日本建築学会近畿支部の2014年5月26日「要望書」の東大阪市旭町庁舎についての見解を抜粋して紹介しておきたい。

・建物の概要

建物は内外ともに、竣工当時の打ち放しの鉄筋コンクリートのままの姿で現存している。屋内では竣工後、改修された部分も見られるが、廊下に面したガラス窓やドアのサッシも、竣工当時のまま残されている部分がある。当時の市議会議場は、現在は倉庫として使われているが、その空間は現存している。全体的には、竣工当時の姿をよくとどめている建物だと言える。

・戦後のモダニズム建築としての価値

合理性を追求すると同時に、コンクリート打ち放しという殺風景で単調になりがちな素材を用い、変化と軽やかさのある造形を実現し、また構造的に大胆な造形を試みた点において、戦後モダニズム建築の代表作と言える。

・坂倉準三の建築作品としての価値

当該建物は、ル・コルビュジエ(坂倉が事務所に勤務)風のデザインの特徴を随所に見せ、小規模ながらも全体は力強い造形でまとめられている。坂倉と所員の個性が調和して、坂倉建築研究所らしい建物だと言える。

・立地環境に呼応した建築造形

現在は周辺状況が大きく変わり、竣工時のような庁舎の視認性は高くないが、ランドスケープを考慮した設計は今日にも通用するものであり、当該建築物の特質として価値あるものと言える。

・戦後建築の価値と保存活用について

施設の老朽化や経年による陳腐化にも対処することが必要であるが、耐震補強と同時に、抜本的な設備の更新を行ない、今日求められる施設への大胆な用途変更を行うことも可能である。「若い建築資産」としての旭町庁舎の特質が保たれた利活用が期待される。

(2018年4月15日)